平成 17 年度　受託調査研究

「東北歴史街道」に関する調査・研究

■調査の目的

地域社会においては、個性ある地域づくりが求められている今日、地域の豊かさ・魅力を再認識し、独自のアイデンティティとして域内外へ積極的かつ効果的に発信していくことが重要な課題となっている。

また、高速交通網の整備進展により観光の広域化が進んでおり、各地域の特性を生かしつつ近隣地域の連携による、より広い交流圏を視野に入れた観光の展開を促進し、相互の魅力向上への取り組みが必要不可欠となっている。

東北には、人や物の交流にまつわる歴史的・文化的資源が数多く点在しているが、中には時代の経過とともに忘れ去られ、地域に埋もれている資源も少なくない。

こうした資源の掘り起こしと再評価の取り組みを通して、広域的に分布している資源を結びつけることは、東北の魅力の再発見につながるだけでなく、広域的な地域間の交流・連携の推進や交流人口の拡大、さらには持続可能な自立した地域の形成にも資するものとなる。

本調査では、主に近世の江戸時代に整備された、東北域内外を結ぶかつての主要街道や脇街道、海運、舟運等に焦点を当て、東北の発展に果たした歴史的意義および今日的意義を探るとともに、これらの街道等を基盤とした人や物の交流に関連する歴史・文化資源の洗い出しと、それにまつわるエピソードの検証を試み、東北における広域観光の推進や交流人口の拡大に向けた、東北域内外への情報発信のための素材発掘（モデルルートの提示）を行った。

■調査概要

1. 東北の歴史街道概観

古代律令制下に確立された官道である七道を起点に、近代的交通が発達する以前、徒歩や牛馬輸送あるいは北前船などに代表される海上輸送、河川舟運などが主要な交通手段であった近代初期に至るまでの東北の歴史街道について、全国の動向を俯瞰しつつ概観した。

2. 歴史街道と地域づくり

近年、古道・旧街道の発掘、復元などの取り組みを通して、地域の歴史・文化資源を見直し、地域活性化につなげようという動きがみられることから、東北および他地域に

おける主な事例を取り上げ、ヒアリング調査・新聞記事やホームページ等の情報をもとに整理し、特徴について考察した。

【 調査事例 】

（1）東北の事例

① とうほく街道会議　② 羽州街道交流会　③ ふくしまけん街道交流会
④ 北羽歴史研究会　⑤ 鹿角街道　⑥ 亀田街道　⑦ 仙北街道手倉越
⑧ 軽井沢越最上街道　⑨ 六十里越街道　⑩ 二井宿街道
⑪ 米沢・越後街道（黒沢峠）　⑫ 会津沼田街道

（2）他地域の事例

① 熊野古道　② 四国遍路　③ 全国街道交流会議
④ 関西「歴史街道計画」事業

（3）事例にみる特徴

① 単なる観光振興ではなく、地域の資源（歴史・文化）を見直し、アイデンティティ、誇りを醸成するプロセスである。
② 宗教という概念の枠を越えた精神性、すなわち祈りや自然との共生、癒し、自己を見つめ直す、悟り、達成感といった要素を持っている。
③ 来訪者（巡拝者）と地域住民との間に交感、共感といったものが生まれる。
④ 県間の交流・連携を促進し、県境地域の活性化に資するものである。

3. 東北の魅力発信と歴史街道

人々の社会生活やライフスタイルといった現代を取り巻く環境の変化を探るとともに、地域資源としての歴史街道が持つ構成要素をあらためて整理した。

その上で、東北の魅力を発信していくためのツールとして、本調査において着眼すべき歴史街道の構成要素と、そこから導き出される具体的なルートをモデル的に提示し、魅力発信のための実践的展開に向けた今後の課題を整理した。

（1）現代を取り巻く環境の変化～人々の社会生活とライフスタイル

環境の変化に伴う新しい動きや概念から、「歩く」というキーワードが導き出される。

（2）歴史街道の構成要素

① 町場とその町並み
② 渡船、舟運、河岸
③ 峠、関所
④ 街道を往来した武将、文人墨客、庶民および物資（地域特産品）
⑤ 歌枕、伝承・伝説、あるいは上記四つの要素から派生する様々な文化

（3）東北の魅力を発信していくための歴史街道－モデル的提示

上記「歩く」というキーワードと歴史街道の構成要素を踏まえると、歴史街道を通じて東

北の魅力を発信していく一つの切り口、素材として「峠」を挙げることができる。

【 峠そのものが有する要素 】

① 行政界および植生、分水嶺などの自然境界線をなす。
② 自然環境および異なる（二つ）の文化圏の変化点、結節点である。

【 峠およびその周辺にみる今日的要素 】

① 峠およびその周辺は“日本のふるさと”といわれるような東北の農山村の景観、原風景が体感できる場である。
② 峠およびその周辺は“見る観光”から歴史・文化を“学び”、さらには現代と対比した“考える”観光を楽しむ場として、すぐれた資源の宝庫である。
③ 峠およびその周辺は、健康意識の高まりを背景にブームとなっているウォーキングやトレッキングなどの実践を通して、爽快感や達成感が得られ、心身のリフレッシュに適した場である。
④ 東北には霊場、信仰の対象となる山が多く、これらの山と峠は一体の資源として捉えられる。
⑤ 峠およびその周辺は、石畳の道の保存や古道ウォークなど旧街道に着目した地域づくりの機運が盛り上がっており、個々の地域文化に光が当たることで県境地域の活性化が期待されるとともに、県間交流・連携の促進を通じて、東北の一体性を高めていくことにも寄与する。

以上の内容を踏まえ、峠を切り口に、東北においてそれにまつわる史実等から複数の項目に類型化し、その舞台となった主な峠と街道・脇街道を抽出するとともに、さらに武将や文人墨客等の歴史上の人物、参勤交代や参詣（信仰）、伝説・伝承等の史実、物資輸送ルートとしての重要度、風景・景観などの歴史・文化資源や自然資源に加え、これら資源の一般的認知度や面的広がり、地域的バランスなどについて多角的に検討し、東北の魅力を発信するのに特徴的な歴史街道をモデル的に提示した。

【モデルとした歴史街道】

○ 出羽三山参詣の道～六十里越街道、舟形街道および最上川舟運
○ イザベラ・バードが歩いた道～米沢・越後街道（十三峠街道）
○ 義経北行伝説の道～岩手・青森の諸街道
○ 塩の道～千国街道（松本・糸魚川街道）と久慈野田街道
○ 戊辰戦争の舞台となった道～奥羽越の諸街道

上記の五つのルートから、『出羽三山参詣の道～六十里越街道、舟形街道および最上川舟運』に焦点を絞り、東北における代表的なモデルルートとして位置付け、歴史街道を通して東北の魅力を内外に発信していくための課題・具体的な方策について整理した。

【 今後の課題と展開方向 】

① 六十里越街道や出羽三山の魅力を地元の視点で地域内外に発信する一手法、あるいは地域独自の“接待＝もてなし”の文化を育む端緒として、大学等

の研究者のみならず地域住民をも巻き込んだ「六十里越街道学」や「出羽三山学」といった地域学（地元学）の展開が考えられる。

② 行政界や生活圏域を越えた広域的な展開を図る。

【 広域的な展開へのプロセス（案） 】

第一段階：六十里越街道沿道の連携
第二段階：舟形街道や最上川舟運のある最上地方へと連携の範囲を広げる
第三段階：羽州街道や軽井沢越（田代越）最上（仙台）街道、笹谷街道などの参詣者が往来したといわれる街道も対象に含め、連携の範囲を近隣県まで広げる
第四段階：羽黒修験（山伏）の地域勢力範囲、いわゆる檀家は「霞場」や「檀那場」と称され、東北各地はもとより関東・北陸にまで出羽三山信仰が広まったことから、これらの地域にまで連携の範囲を広げる

【 具体的な方策として 】

① ハード・インフラ整備の面については、環境や景観に配慮し、かつ歴史・文化資源を生かした発想、手法が求められる。例えば、地域住民の自発的な取り組みにより、六十里越街道沿いにある茶屋跡を簡易で身近な交流施設、ビジターセンターとして復元することが考えられる。

② ソフトの面については、受け入れ態勢を充実していく上で必要不可欠な案内人（ガイド）の養成にあたっては、広域的な展開を視野に、前記四つの段階を踏まえた広範囲な歴史・文化の修学に努めるとともに、既に活躍されている各地の案内人が各種情報を交換・共有できるような機会、組織をつくっていくことが求められる。

③ いま在る地域資産や地域学（地元学）の取り組みによって蓄積される成果をどのような媒体を活用してどういう形で情報発信していくか、その方策を検討していくことも重要であり、例えば、湯殿山開山 1400 年や出羽三山の御縁年など、節目の年に様々な仕掛けをしていくことが考えられる

以 上